



毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)

編輯 須野上野 長
 發行 市田縣野 所行發
 校學門專 市田縣野 町縣南市野 所印刷
 社會式株開新日每澤信

人造絹糸検査方法の概念

福井 黒 岩 覺

我が蠶絲業界の大敵で有る人造絹糸の進出は近來實に素晴らしきものにして只驚異と疑惑とに焦燥せずには居られぬ、筆者數年前迄は到底人造絹糸の敵に非らずと空嘯き居りし者なりしが、最近此の觀念が若干否大分薄らぎつつ有り、それ程人造絹糸の進出は加速度的にして我が生絲界を脅威しつつ有るので有る。

斯く人造絹糸の進出著しくなるに従ひ之れが生絲の検査も自然必要を感じる様になる事は論を俟たぬ事なり、今此の検査に就き其の方法の大略を記し聊か大方諸彦の批判を仰がんとするものなり。

正量検査
 正量検査は人絹糸一括(十封度)の表示總數の一割を採り(端數は四捨五入とし偶數に採る事、即ち表示總數九十八總なれば十總)此の十總を同數の二區に別ち溫度C百五度以上C百十度以下にて四十分間乾燥したる後秤量し以後十五分おきに秤量してその減量〇、〇五%に達したる時を

山本三六郎著
化學純絹糸の工業的完成
 蠶絲科學研究會編
 伊太利蠶絲絹業の衰退原因と其の現況
 菅原勇治著
蠶絲業法規要論
 改正
 市田縣野野長 所行發
 會究研學科絲蠶 (振替長野6413番)

無水量と認む而してその二區の平均無水量に依り一件の總無水量を求め之れに百分の十一の公定水分量を加へ正量を算定する、但し前二區の水分率百分比に於て其の差〇、五以上なる時は更に表示總數の五分を採り(端數は四捨五入)一區とし其の無水量を求め之れを前項二區の無水量に合算し正量を算定す。

生絲用檢尺器	人絹用檢尺器		差
	デニール	デニール	
一 四五〇	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
二 四五〇	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
三 四五〇	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
四 四五〇	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
五 四五〇	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
六 四五〇	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
七 四五〇	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
八 四五〇	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
九 四五〇	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
合計	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇
平均	一五三、三五	四四七、四〇	一、〇〇

生絲用檢尺器 右試驗の結果に依る時は、人絹用檢尺器は、生絲用檢尺器の九八%に當り居るなり。

一、平均正量減度検査
 品位検査は一件毎に十總を採り左の各號に就き行ふ。
 一、平均正量減度検査
 各總の表裏より人造絹糸用檢尺器

平均正量減度を求めるものとす。計、人造絹糸用檢尺器は從來の生絲検査用檢尺器と異り廻轉速度を調節し得るものにして之れ人造絹糸は非常に切斷し易きものなる故最初緩速度にて始め順次廻轉を早め一分間二〇回迄にす、且つ絲條が二吋巾に廻き付くものなり之れ人造絹糸は生絲と異りデニールが非常に太き爲め(一概には論じ難きも約十倍)從來の生絲用檢尺器にては絲條が重疊し絲長が長くなる爲正確なるデニールを測定し難き爲なり。今福井縣生絲検査所に於て兩者の比較試験を爲したるものを示せば次の如し。

デニール公差

一括(十封度)	試験の各回数に於けるデニールの限界
百五十デニール表示デニールの四八%以上上下各百分の四八%以下	同上各百分の四八%以下
百九十デニール表示デニールの五十二%以上上下各百分の五十二%以下	同上各百分の五十二%以下

重量公差
 一括(十封度)の重量の最大限度を公定水分の状態に於ける十封度二分とす(遊絲を含む)

三、強力及伸度検査
 一件毎に十總の各總より二口宛二十口を採り十口宛乾燥兩状態に於て検査す。

強力計の重錘はD30瓦、移動クランプの速度は一分間五〇〇・Mとす

人造絹糸は水に對する抵抗力比較的弱きものなる事は衆知の事實なり故に濕湿度の變化に對し成績の變化の伴ふ事甚しき爲め強伸力の試験は其の試験室の濕湿度に非常に注意を拂らひ居るなり。即ち測定前少くも六時間溫度二〇度C濕度六〇%乃至六五%の室に保ち此の%内にて試験する事或は二十四時間以上放置し試験當時の濕度濕度を並記する事但し濕度五〇%以下八〇%以上の場合には試験せざる事となり居れり。

四、撚數検査
 十總より一口宛合計十口を採り檢撚器にてD30瓦の重錘を掛け其の緊張度にてクランプ間に挟み一米間の撚數を検査す。

此の外人造絹糸は生絲と異り科學的に製造さるゝものなる故糊付の工合染色の良否及び毛羽立ち程度等を試験するの必要有り。

(一九三二、五、一)

續異端の目

蕉

君子國の行方!

孔子の國にだつて梁上の君子が居つても一向差支へない事は彼の石川五右衛門氏の辭世の名句によつても立派に立證出来る!と云へば...

註釋を付するのはチト遠慮すべきだが、ママよ、心あるものは耳を覆ふて聞け!

「汝の母を殺せ!」 僕は出来、子曰く、と云ふ型にはまつた講義が嫌ひだつたが諸君!

吉凶は楯の両面だと云ふ話 鶴龜と云へば、日本では一番御芽出度い事になつて居るのは諸君先刻御承知の通り。別して龜は「萬年」と云つて等と、申せば少々御講義めくが、この龜公支那に來ると愚鈍の代名詞となるから面白い。曰く、「王八!」

支那人の子供は壁に落書きする時は吃度斯ふ書く。即ち「王八」 蓋し馬鹿野郎とシノニムだ。

此處を書き乍らも時は初夏、同窓の若い誰かこの「王八」を床の間に据ゑて「高砂ヤ!」なんて良い氣持ちになつて居るだらうと聊かコソバユクある。

「王八」のナンセンス

龜は萬年の迷信(?)からと云ふ譯でもあるまいが東方の馬子國人が判

つてこの「王八」先生(スツボン)の生血を御好みになると云ふので北滿地方から大量輸入すると云ふ。

無暗に重ねて詰めると、上の奴の小便が下の奴にかゝつて死ぬ。と云ふ譯で頭の上に、尻を下に云ひ換へるに書く事が、曰く、赤字で「天、地」と

暑中見舞廣告募集

從來本誌は千曲會員の各位に對しては勿論本誌に關係を有する方々には汎く御配りして有ります。従て年末年始の御挨拶から御轉任の場合の御挨拶はまた暑中見舞、暑中見舞に至るまで本誌紙上を御利用下さる事が世智辛いで先づ之れが第一歩と致しまして會員其他の各位相互間に於ける暑中見舞の交換を廢し本誌を通じて其の動靜を伺ふことに致さるる事が最も時宜に適した企てであるかの様に考へ茲に皆様の御賛同を得て本誌七月號に之れが廣告を掲載することと致しました。就きましては左記御承知の上何卒御申込下さい。

- 一、六月末日までに到着する様千曲時報編輯係へ端書にて御申込下さる事。
二、廣告料金壹圓也、但し若し連名にて出される場合には相當割引致します(暑中見舞なる事を明記し同窓會宛(振替東京四三三三番)御拂込下さる事。以上)

千曲時報編輯係

死屍を棄てる

(これは怪談ではない)

吾々の棄てた石炭の山に集つて目も鼻も口も灰だらけにして僅か許りのコークスを集める女達の群がある。

この近くでは子供が病死しても決して葬らない。何ふするかと云ふと河畔などに持つて行つて棄て、來る曰く。

「親に先立つ不孝者だから!」 疊の上では死ぬぬ 重病で最早や醫者もサジを投げた

となると最早や猶豫はならぬ、未だ血脉のある、シヤイネ、ストウクの病人を温突炕から土間に降し、室外に出す。

「屍(温突)の上では息を引き取らせぬと云ふ。

孔子の國、孔子の子孫。それよりも世界で一番人肉料理の發達して居るのは支那だと云ふ。

正誤

五月號登載(異端の目)文中

正

氏は争はれぬ 此は争はれぬ

農友

砂糖湯

砂糖湯

高登會見記

Y K 生

己は元來相撲には關心が持てなかつた、國技と言はるゝ位だから勿論其眞髓には不可侵な日本特有の古代精神が流れて居ることだらう、けれども其の演技者の生活や環境を一瞥すると所謂現代のスポーツマンシップとはとつてもつかない距離があつて如何しても之をスポーツの對照とは考へることが出来ない。

或は封建時代に於ける特權階級の支配化が眞のスポーツ精神を擡めて幫間的に遊技化したものであらうか! そんな詮索は如何でも良いとしてこんな僻目な相撲讚美者が上田で東京相撲一行を迎ふることになつた。平常なら玉屋の軒下にぶら下つて居る何とか川と書いた宿札の時代離れしたプロバカンダに一顧をさへも與

へないのだが今度は其の一行中に同窓吉川孟文氏令弟高登の存在することによつて忽ち關心の世界に引きずり下ろされて了つた、上田雀の相撲通が喧傳する噂をきくと高登は現代棋介に於ける吳清源の如く其の出現は奇蹟的であり其の躍進は破格なものである。年が若い上に比較的体格がガツチリし敬虔ある態度に加へて藝道に眞摯なる點等から非常に嚆望されて居る。そう、太郎山等は問題にならない。そう、太郎山を言へば母校に最も御馴染の深い上田市の背に突兀と聳ゆる標高千五百尺の太郎山を名乗つてたつた市出身の力士がある、入幕迄の精進ぶりにはさてこそ雷電一小時那出身の再来かと松尾城下のフアンを震駭させたものであつた、所が入幕して彼れ此れ五六年にもならうか依然として幕内のカナハズなクリテカルポイントを幾度も往來して郷黨フアンを冷やかして居る、太郎山の周圍は御定りの飛花紛々たるものがあつて、いつか余り負けるので退に辛棒強いフアンも劫を煮やかし「サケノムナレコヤメロ」といふ珍電報を打つたと云ふことは余りにも有名なエピソードである、此の太郎山も郷里に錦を飾つて一緒にやつて來たわけである。

別にうまい撒迎方法も考へられぬ、學校へ交渉し招いて一席の講演でも願はうか、晩餐會でも開いて饗に接つしつゝ斯道の健啖ぶりでも拜見しやうか等々思つても見たが午後八時半に着いて明日を打ち揚げ午後六時で出發するといはてはもう如何にもならない。其所で且さんTさんと三人で初見

參に其の旅館たる觀水へ午後九時に
出かけて往つた。

觀水には二十人も宿ると云ふの
で取的一杯である。面會は支那を
上つたトツケの應接間で行はれた、
應接間の中と外とで初対面の挨拶を
交はしたのだが中に樹つて居る吾等
に向つて御辭儀をして居る間だけは
完全に視界の存在となるが、頭を上
げると少くとも頭だけは鴨居の前
はみ出して大きな身体だけしか見え
なくなつて了ふ、従つてホリユーム
の大であることも云ふまでもない六
尺餘寸に体重二十七貫と云ふ人離れ
した質量の持主である。

同じバットを手にして居るのを見
ても彼の手ではマツチの箱の如く
小さくなり吾等の手中へ返ると矢張
りバットの箱と化つて了ふ。
丑さんも己もそう小さい方でもあ
るまいが此所に至ると全く顔色無し
である。

吾等の來意を非常に喜んでくれた
彼れ巨漢は身体にも似合はないやさ
しい聲で角界に入る道程と今日迄の
精進ぶりを具さに話してくれた、謙
遜な口調紳士的な態度鄭重なものご
し等々はるかに吾等の想像を裏切る
ものがある、彼も昔は天龍河畔で蠶
の友であつた、あの四眼起き十日間
の不眠不休の努力は決つて眼底を
逸つし去らない、日常の起臥でも稽
古中でも現實的の苦痛にぶつかると
忽ちに庭起きのあの困苦が現はれて
勵精叱咤してくれる、今日迄の苦痛
も庭起きの忙がしさに比ぶれば實に
鐵袖一觸である。大成の日迄は斷じ
て此の百姓の勞苦を忘れない。

又今は修道院的なあらゆる禁欲生
活をして居る。たゞ煙草だけは割合

に有閑的な生業だけに身体に燒き付
いて了つた、此點は顧みて性根たる
ものがある、今日からはからずも兄の縁
故により上田に望外の知己を得殊に
千有餘の同窓に關連して居ることを
思つて百萬の味方を得たる感があり
愈々守りを堅くし行ひすまして其の
知遇に報ひたい。

赤誠表にあらはれ聲涙共に下ると
云ふ熱心さであつて吾等も非常に喜
んで了つた。此の意氣がきつと彼を
横綱にする確信した、たゞ單に古
い形態だけを脱ぎ棄てたつてデョ
ン髭を切つたつてABCの横文字を使
つたつてそんなことで武士道を汲ん
だ角界は決つて救はれるもので無
い、一人一人の力士に眞のスポー
ツマンツツを注ぎ込むことである、
此の典型的な姿を今高登に見出した
やうな氣がする、彼の精進には「庭
起」的な土の香を持つことが一層吾
等の蠶人を喜ばせる、形体問題等は
枝葉末節の問題だ、快漢高登關よ！
たゞ一人で良いから今持つて居る心
を地に往つて 眞の角道を樹て直せ
！ 大に感心して歸つて此の蠶の力
士を同窓各位に推稱する次第である
(終り)

臺灣蕃族傳説

桑樹の葉を食つてゐた

ユトサ蟲と契つた娘

小林 貫 一

或年頃の娘の家に夜な夜な眉目秀
麗の青年が通つて來た。娘も憎くか
ら手思ひ、末は夫としたいと迄も待
過した。或夜男は歸るに際し御身の
煙管を貸し給はぬかといふ、(ツオウ
族では相思の仲で、女に煙管を貸

す習慣がある)彼は近日青年集会所
を造るに就て御身の煙管を借り休憩
時に疲れを休めたいといふのである
彼女が承諾した。日は來た。娘は教
へられた場所青年の胸前を見に行
つた。然るに集会所らしき敷地もな
ければ何一つ材料もなく、青年一人
も見出せない。さては聞き誤りかと
四方を見渡すと立派に繁茂した一本

蠶絲科學講演集購讀者募集

永らく延引中の第三輯(針塚先生還曆記念號)は愈明文堂
から出版されました。就ては豫約申込者に對しては「代金
引換小包」にて御送本申上げる豫定ですから左様御承知を
仰ぎます。

豫約申込者の分
一金壹圓四拾錢也

一金參拾錢也
計金壹圓七拾錢也

尙本會々員にして購讀御希望の方は殘餘約百部限り定價
の一割五分引(二冊金貳圓五拾五錢外送料)にて分讓致しま
すから至急本會々計係宛御申込下さい。
又蠶絲科學講演集第二輯も約二十部ばかり在庫品があり
ますから一冊金貳圓(外送料)にて分讓致します。

農林省だより

新 庄 生

ついで此間學校を出た様な氣がして
ゐる中にはや十年目の春を迎へた。
永い間御無沙汰してゐるので御詫び
旁々彼所の近況を御知らせする事に
した。

御紹介する。
田口敏夫君(絲一) 田口技師は蠶
業課の原田技師と共に僕等の最も尊
敬し最も信頼してゐる大先輩である
製絲科卒業生の多くが工場に行くに
も拘らず田口技師は最初から官吏と
なつて一働きたいとの確固たる希
望を以て時の農商務省に入つた。爾
來十有九年今でこそ農林省内に十餘
名の同窓生があるが共極々最近ま
で永い間孤軍奮闘實によく辛抱した
ものだ。然し今では官界にある同窓
生中のピカ一として光つてゐる。殊
に勳五等を戴いてゐるから斷然すご

の桑樹があつて、ユトサ蟲が盛に葉
を食つてゐる。何心なく見ると中に
一匹は煙管を銜へてゐる。然かもそ
れは紛ふ方なき貨真品である。娘は
我が許に來た男はユトサの化身かと
身の毛の彌立つばかり驚いたが如何
ともすることが出来なかつた。其の
後は再び女の室には入らなかつたと
いふ。(終)

定價金參圓の貳割引 貳圓四拾錢の内殘額 代金引換小包料

いものだ。大正〇年〇月〇日日獨の
風雲愈々急を告げ遂に岐卓〇〇聯隊
に動員された田口陸軍少尉は内地勤
務ではあるが輸送指揮官として〇〇
の軍大使命を果した。其の功に依つ
て勳六等に叙せられ、次で昨年勳五
等に昇叙せられた。君の趣味は講談
である晝休に御得意の荒木又右衛門
の一席が始まると役所の面々が椅子
を携へて黒山の様に集まる程大した
人氣である。

武井光雄君(絲二三) 君の名はテ
ルヲと讀むんださうです。學校で一
年助手をして農林省へ入り今は蠶絲
統計や生絲検査所關係の仕事をして
ゐる。君は非常に世話好きで東京支
部の事、同窓生の事は勿論何でも手
まめ足まめによく働いてくれる。趣
味は野球にキネマ……等 そしてま
だ獨身である。

富岡秀君(絲一六) 元小川秀(シ
ゲル)と讀む君は上州富岡家の養子
となり富と美人を同時にキヤツチし
今春は又可愛いお嬢さんの御やぢさ
んとなつた。卒業以來農林省で共同
購倉庫關係の仕事をしてゐる仲々よ
く働く愉快な男である。

中島進君(絲一七) 富岡君と一緒
に役所へ入り其年二ヶ年間近衛重
兵大隊で軍隊教育を受けた。荷物を
造つたり馬を挽くのは極くウマイさ
うだ。ガツチリした男で眞面目でよ
くやるので一般のウケもよい。近頃
碁が大變上達したさうだ。さあ腕前
は初段に何目位かは聞き洩した。

大塚精一君(絲一七) 卒業と同時に
に役所に来て製絲業の實態調査をや
つてゐる。庭球のチャンで先年農林
商工兩省の庭球大會で大臣カップを
貰つた程のスゴ腕だ。尙野球もダン
スも仲々ウマイ相だ。
兒玉忠雄君(絲二) 林教授の前に
學校で助教をしてゐた僕等のクラ
スは五六時間教へて貰つた許りで特

許局へ轉任せられ今は特許局技師で製絲機械の審査官である。一週に一度宛爾絲課の囑託として僕等の仲間入りをする譯だ。御得意の油繪を時々上野の展覧會に出されるが定價は五十圓以上との事である。

次に僕も繭絲課の仲間ではあるが後廻しとして蠶業課に移らう。原田兵衛君(蠶一) 長野蠶試の松村技師、上田の浦生教授と我が原田技師を上田の三羽ガラスと某紙にあつたが學生時代からの秀才である。ドツシリとした体格で腹も大きい近頃頭に白髪が目立つ様になつたが益々元氣で各方面に腕を奮つてゐる。田口技師と共に同窓生の信望を一身に集めてゐる。切に御兩人の御自愛を祈る。

小口一枝君(蠶九) 山形の蠶試から農林省へ来て蠶業取締の事務をやつてゐる。極くおとなしく眞面目でコツ／＼勉強してゐる。趣味はテニスと養鶏ださうだ。

宮前邦雄君(蠶一二) 舊性高山と云ひ上州の實家は高山社蠶業學校を經營してゐたので有名だ、君は埼玉縣廳に勤務の傍日本大學の政治經濟科を卒へた篤學の上で學生時代から仲々議論家で相當に氣概も上げるが仕事にも非常に熱心な感心な青年である。

内藤良雄君(蠶一四) 卒業すると直ぐ蠶業課に入り勤務の傍々日本大學を卒へた之亦篤學の青年である。仕事もよくやるが明るい感じのする愉快な男で一般のウケも仲々よい。淺見安治君(蠶一七) 大塚君と一緒に役所へ入つた、ガリ版書きが非常にウマイので重寶がられてゐる。人間は何か特長を持つてゐる事が大切である。

新庄哲二郎君(蠶一〇) 埼玉蠶試の製絲部に足掛四年めて農林省繭絲課へ来たが人間は辛棒と勉強が第一

とおとなしくコツ／＼働いてゐる。伊藤勢龜君が神戸生絲検査所技師に榮轉後製絲業の實態調査、全國製絲工場調査、夏挽回調査と云つた様な調査事務をやつてゐる。此男は酒も煙草も〇〇もやらない。近頃身体が大分デブつて来たが何時か確氷君が書いた様に御馳走をタラシ食べる譯でも〇〇が澤山出来たわけでもない。之は掃生を守るからである事を一言加へておく。今迄永い間引込んで許り居たが之からはウント働くつもりだから此機會に改めて同窓各位の御指導と御援助を御願ひしておきたい。

終りに千曲會の隆盛と會員諸兄の御健康を御祈りしておく。(昭和七、五、一)

茨城支部會記事

春開なる四月十七日茨城支部例會を石岡町に開催す。會員少々稍々寂寥の感ありし當支部も本年度は、伊藤、尾藤、三瓶の三氏を迎へ、新たな喜びと力強さを加へた。例年なら二月中旬頃開かるゝ慣しであつたが本年は日支問題益々悪化し上海事件に迄進展せし騒ぎに時勢に鑑み、尙一つには、會員中軍籍にある者一、二名も出征さるゝ模様になつたのでこゝ暫く延期になつて居たのであつたが支那事變も餘程下火となり出征兵士の一部は早くも武勳赫々凱旋するやうになり、漸く人心の平和を取り戻したる現時、懇親の會をも合せて、茨城支部會を開いた。

し、次に支部會の活動方策、明年度の開催方法等に就いて協議したが支部會活動の方策は、何所如何なる場合にも附き物の費用の點で行き詰り當分は時勢に應じて緊縮方針にて進むと云ふやうな所に集がついた。明年は常陸海岸、磯部で有名な湊か大洗邊に開くと云ふに大体きまつた。因に改選の結果新役員左の如し。

茨城支部總會 三瓶常一 相澤伸司 本谷良雄 川島龍太郎 尾藤義助 石岡町吉野樓 伊藤勢龜 佐藤義助

山緒を持つた町だが幾度か大火の厄に遭つて、誇るべき古蹟の大方は亡びてしまつた。今は唯單なる田舎町として、常陸の地に空しく昔の府中の名を留めつゝ、文化に遅れたその存在を認められて居るに過ぎない。然し昭和四年の大火災より更生した石岡町は、白壁の酒倉、昔床しい紺暖簾の古風な店構えは大方跡を絶て表通りは木造ながら洋館立ち並ぶモダン街と化した。縣下に冠たりと自他共に許す坦々たるアスファルトの舗道、街路樹のプラタナスは人々もよく呼び馴れぬ中にスク／＼と伸びて見上ぐる枝々には薄緑

伽藍であつた事だらう。その結構を愚ぶに充分な仁王門が最近迄残つて居たが、明治四十一年の大火の際灰燼に歸してしまつたとか、寺院の墓空高く聳えしあたり今は或は草原に或は杉小立に變り果て、それと思ふあたり形見の巨石が一つ置き据えられてある。

恐怖時代

先月十五日は何といふ恐るべき日であつたか、夕やみ迫る帝都に突如恐怖戰慄すべき犯行が行はれた、首相官邸、警視廳、日本銀行更に又近接變電所等々殆ど時を同じうして兇漢の襲ふところとなつた、中に最も大なる慘劇は大養老首相の生命を失ふに至つたことである、我等は偉大なる老政治家大養老氏を失つたことを悲しみ、その犯行に多大の悪しきを感じざるものがあるが、一体何がそうさせたか熟考する必要がある。

叙任及辞令

◎地方農林技師 佐藤良太郎
七給奉下賜(四月十六日富山縣)
◎愛知縣西尾蠶絲學校教諭 吉野健吉
公立實業學校教諭ニ任ス
高等官七等ヲ以ツテ待遇セラル(六月一日)

◎鹿兒島縣農林技師 福富繁
地方農林技師ニ任ス
鹿兒島縣農林技師ニ補ス(五月三十一日農林省)
高等官七等ヲ以ツテ待遇セラル(六月一日)

住所の移動

小澤 丘 舊職費 東京市外代々木南山谷四五七
朝倉 昇 蠶一 朝鮮新義州府櫻町官舎
小林 國造 蠶二 静岡縣三島町奈良橋(五三三)ノ二
野崎 清 蠶四 全國蠶種業組合聯合會(東京市丸ノ内三丁目一番地帝國農會内)

橋本 都城工場(宮崎縣都城市) 蠶十七 長野縣蠶業取締所 屋代支所(屋代町)
沈 興 蠶十七 富川郡(朝鮮京畿道)
宮川俊 蠶十七 長野縣蠶業取締所 上諏訪支所(上諏訪町)
北條 正文 蠶十七 長野縣蠶業取締所 池田支所(池田町)
早乙女 德藏 蠶十七 東京府蠶業取締所 福生支所(東京府福生町)
中澤 喜雄 蠶十八 本校病理學教室 蠶本 蠶十九 愛媛縣蠶業取締所 宇和島支所(宇和島市)
辻本 勇 蠶十九 三重縣蠶業取締所 松坂支所(松坂町)
千吉良 幸 蠶十九 群馬縣蠶業取締所 藤岡支所(藤岡町)
町野 巖 蠶十九 日東製絲蠶事所 (兵庫縣朝來郡竹田町)
均宅 蠶十九 京畿道原蠶種製造所(京都市東大門外)
今井 武四 蠶十九 群馬縣蠶業多那北橋村
上原 安夫 蠶十九 長野縣南佐久郡中込町
岡本 正男 蠶十九 岡山縣吉備郡日美村
小野 克治 蠶十九 山形縣蠶業取締所 長井支所(山形縣長井町)
竹内 博雄 蠶十九 長野縣小縣郡神川村
小林 茂樹 蠶一 愛媛製絲株式會社 (愛媛縣別所郡丹原村)
小林 茂雄 蠶一 本校製絲科
伊藤 柳作 蠶一 矢島製絲株式會社第三工場(甲府市富士見町)
田浦 準 蠶二 熊本縣蠶業檢定所(熊本本市出水町)
長野 充博 蠶三 菊池製絲場(熊本縣菊池郡菊池村大津寺)
橋本 景吉 蠶四 確水社高崎製絲場(高崎市飯塚)(自宅高崎市飯塚九三四)
吉岡 道真 蠶七 京都府相樂郡笠置村 山田 一四六
小笠原 喜代三 蠶八 水内社(長野縣下水内郡飯山町)

坂本 孝子 蠶八 橫濱生絲檢査所(橫濱市中區北仲五丁目)
渡邊 隆平 蠶九 神戸生絲檢査所(神戸市渡邊通八丁目)
山岸 寅雄 蠶十 昭榮製絲株式會社米子工場(鳥取縣米子市)
若林 新一 蠶十 林製絲株式會社 小川工場(熊本縣下益城郡河江村)
岩田 正 蠶十二 片倉共榮製絲株式會社(新潟縣五泉町)
山口 榮治 蠶十二 片倉製絲紡績株式會社(東京市京橋區京橋三丁目二)
橫山 英一 蠶十二 昭榮製絲株式會社 新町工場(群馬縣多野郡新町)
土屋 勳 蠶十二 那是製絲株式會社 岡部工場(京都府船井郡岡部町)
倉澤 源太郎 蠶十四 片倉製絲紡績株式會社(東京市京橋區京橋三丁目二)
北村 孝治郎 蠶十四 京都市疏水通川端東入
茅野 清三郎 蠶十五 三井物産株式會社 生絲部神戸支店(神戸市海岸通三)
佐野 忠二郎 蠶十五 神戸生絲檢査所(神戸市渡邊通)
細田 親二 蠶十五 長野縣西筑摩郡福島町
三谷 勝 蠶十五 片倉製絲紡績株式會社工務部(東京市京橋區京橋三丁目二)(自宅花原郡松澤村大字松原三四〇)
國貞 忠男 蠶十五 後藤商會(東京市神田區紺屋町二)
神津 輝人 蠶十六 白浦信用組合製絲部(愛媛縣東宇和郡玉津村)
永山 平 蠶十六 鹿兒島縣蠶業檢定所(肝屬郡鹿屋町)
杉山 一夫 蠶十六 三井物産株式會社(橫濱市中區日本大通)
西田 勇三郎 蠶十六 那是製絲株式會社 今市工場(鳥根縣今市町)
岡倉 美義 蠶十七 肥後製絲株式會社 豊田工場(鹿兒島縣下益城郡豊田村)
兒玉 逸夫 蠶十七 山十製絲株式會社

(朝鮮大邱府)
原井 國雄 蠶十八 熊本縣下益城郡小川町出來町
平山 俊雄 蠶十九 肥後製絲株式會社 熊本工場(熊本市坪井町)
本間 茂銳 蠶十九 會陽製絲株式會社 二平松工場(福島縣二本松町)
林 龜一 蠶十九 片倉製絲江津工場(鳥根縣石見郡江津町)
飯島 貞雄 紡一 東京市牛込區市谷藥王寺町八四番地
伊藤 友次郎 紡二 大阪市東淀川區國次町三九〇
巢山 喜吉 紡二 熊本縣鹿本郡米田村
河西 尙一 紡二 紡績雜誌社(大阪府南海線羽衣駅前)
高橋 利光 紡二 滋賀縣蠶業試驗場(長濱町外)
櫻井 隆夫 紡四 長野縣小縣郡長瀬村山下矢之助 紡五 昭和紡績株式會社(和歌山市外塩道)
入井 三郎 紡六 富山縣下新川郡西布施村小川寺三〇三三
高橋 眞澄 紡七 上田市横町
上垣内 武彦 紡八 廣島縣工業試驗場(福山市)
竹内 方榮 紡九 鐘淵紡績株式會社京都支店(京都市左京區高上野開町)
松崎 武雄 紡十 廣島電信第二聯隊第三中隊隊部候補生
小林 忠十郎 紡十 高崎步兵第十五聯隊第四中隊隊部候補生第一班
丸山 力藏 紡十一 酒伊精練加工工場(福井市外木田村花堂)
大塚 富雄 紡十一 熊本縣菊池郡瀨田村大森三三三
近藤 清一 紡十一 倉敷紡績株式會社 倉敷工場(倉敷市)

御挨拶

謹啓
私事
純水館屋代工場に永年在勤中は公私共多大なる御愛顧を蒙り厚く御禮申上げます。今回都合に依り屋代工場を辭し母校製絲部教養養成科に勤務させて頂く事となりました。就きましては何卒相不變御愛顧御鞭達下さいませ。未筆失禮で御座います。御健康と御奮闘を祈り御挨拶と致します。敬具
五月廿四日 小林 茂雄

編輯室より

毎月千曲時報は四日までに原稿を取纏め、五日に長野へ發送し、十日頃初稿が送り届けられ大体校正の後再び原稿を長野へ送り、十四日には本稿が出来て上田へ到着、十五日には恰度發送が出来る順序となつて居ります。尤も色々の事情で二、三日發行が遅れる事もよくあります。
御投稿下さいました原稿については種々協議もし場合によつては原稿用紙に書き直さねばならぬ様な事もあります。就きましては原稿は何時も月末までに編輯部へ到着する様御發送下さりますれば非常に好都合と存じます。なほ原稿拜受の場合には直ちに御禮狀差上げべき筈であります。その翌月號に掲載出来る様な場合には別に禮狀も差上げないかも知れません。何卒不慮左様御含み置き下さい。
終りに編輯者が取捨、選擇に苦しむ位どしどし御投稿下さいませ。様切に御願ひ申して置きます。(K.S.)